



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

JUNE 2020
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 54 no. 3

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

定時総会報告（書面議決の結果について）

すでにお知らせいたしましたように本年度の定時総会は、実地会議方式で行わず、議案は投票による決議いたしました。正会員33社に対し、投票総数27票、投票率82%で本総会は成立となりました。その結果、ご提案いたしました議案につきまして、原案のとおり承認となりましたので下記の通りご報告いたします。

世界中がコロナ禍の困難に対峙する中、協会として会員各社のためにできることを模索しながら、当期の運営をいたしてまいりますので、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

記

- | | |
|-------|-----------------------|
| 第1号議案 | 2019年度決算に関する件 |
| 第2号議案 | 2020年度予算に関する件 |
| 第3号議案 | 定款改定に関する件（理事定数、任期、選挙） |

いずれの議案も賛成11票、反対0票、委任16票で可決いたしました。

なお、それぞれの議案に関する参考資料（決算、予算、定款変更、委員会報告等）は事前に郵送いたしましたものをご参照ください。

以上

理事会報告 2020年2月26日（水）

出席者：グレスヤム、河村、山川、阿部、平野（総務委員長）、正田（事務局） 以上敬称略

1. 予算状況

予算に対して会報製作費がおさえられている。→通関統計をやめ、紙面を少なくしたため。次の理事会で来年度予算案を作る。

2. 総会に向けて

5月29日（金）出版クラブにて。今回は役員選挙無し。会員数の減少に伴う定款の見直しが必要となり、総務委員会で協会定款改定案を検討。理事の人数を5名で固定。推薦理事1名選出は必須。

3. 委員会報告

総務委員会

- ①正田氏の業務委託契約の確認。2019年4月に遡ってMHM社と契約する。
- ②セミナー・実施。年1回は開催したい。書協も参加してもらえよう企画を検討したい。セミナー・ワークショップとサマーパーティーを一緒にしたらどうか

→内容と時期次第。

メディア・広報委員会

ダイレクター制作について、HP上でネット広告は出来ないか。→作りこむのが難しい。

文化・厚生委員会

3月に予定の映画鑑賞会は新型コロナウイルス予防のため延期に。

事業委員会

今年も洋書バーゲンの2か所に参加の予定。（神保町ブックフェスティバル、東京古書会館古書まつり）

4. その他

退会予定 エイビス、ネリーズ3月末退会の連絡有り、マティマティカから打診あり現行38社→35社に

次回の予定

総務委員会の予算案→3月中、理事会→4月開催予定

理事会報告 2020年4月16日(木)

出席者：グレシャム、河村、山川、松村、阿部、平野（総務委員長）、正田（事務局）、河村 以上敬称略

1. 2019年度決算承認

事務局提案通り、全会一致で承認された。

報告された決算の内容は下記のとおり。

- ・収入は、約4,864千円の予算に対して、約4,949千円の実績で、予算を約85千円上回った。
- ・支出は、次期繰越金を除くと、4,070千円の予算に対して、約3,157千円の実績で、約913千円の支出抑制ができた。総会やサマーパーティーの会場を出版クラブホールに変更した効果は大きかった。
- ・収支は、約1,003千円改善して、次期繰越金を約1,798千円まで拡大することができた。協会メンバーの相互交流を抑制する意図はないが、結果として、収入減の不安を抱える次年度以降の予算にプラス要素となった。

青柳、富田両監事による監査も完了していることが併せて報告された。

2. 2020年度予算案審議

総務委員会の提案通り、全会一致で承認された。

提案された予算の内容は以下のとおり。

- ・今年度は180万円に近い繰越金があるとは言え、実質的な支出を収入に見合った350万円程度に抑え、できるだけ翌年度予算への繰越金を確保できる組み立てとした。
- ・収入減の内訳は、退会が6社あり、会費収入が減少、事業収入もダイレクトリーの広告が減少する見込である。これらにより、実質収入は前年比で約83万円の減収となった。
- ・支出予算は、事務運営費を前年実績ベースに抑える一方で、事業費及び活動費においては、前年実績を上回る額を確保して、会員相互の交流の機会を縮小させたくないという意思を込めた予算とした。

・結果として、次期繰越金約1,435千円を確保する予算としたが、予備費などの突発的な支出がなければ、予算以上の繰越金を次期に残せるように、費用の効果的な支出に努めたい。

3. 定款改定案審議

総務委員会による改定案が承認された。

変更点は下記のとおり

- ① 4年が限度であった理事の任期の制限をなくした。
正会員数が減少している現状では、理事会の運営に支障をきたす恐れもあり、変更することとした。
- ② 正会員数に比例して決めていた理事の定数を固定化した。(選挙で選出する理事4名と推薦理事1名の計5名)また一方で、6名で固定化されていた選挙管理委員の人数を4名に改めた。現在の正会員数に鑑みた変更であるが、理事の定数に関しては、推薦理事を加えて5名未満では機能しないと判断し、最低限の人数として、5名に固定するという変更を行う。
- ③ 役員選出選挙の投票締切日の変更

現定款の総会の3ヶ月前という設定は、新年度の予算編成を新たな理事メンバーで行うことを企図したものだが、実効性が乏しく、事務手続きも煩雑であるため、任期制限の撤廃を契機に、1ヶ月前に変更した。運営面ではこれに伴い、新年度の予算案の作成は旧メンバーで行うことになる。

4. 総会実施可否討議

今年度の総会は集合形式を取り止め、書面決議に変更する。総会後の懇親会も中止とする。

5. その他

サマーパーティーの開催に関して、5月6日以降の緊急事態宣言の継続状況で可否を見極める。(今のところの予定は7月22日金曜日出版クラブホール)

理事会報告 2020年5月29日(金) 出版クラブ

出席者：グレシャム、河村、山川、阿部、松村、平野（総務委員長）、正田（事務局） 以上敬称略

1. 年次総会決議

本年度の総会は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、郵送及びEメールでの議決開催となった。結果、33会員のうち、投票が11(全て賛成)、委任が16、未返信が6という結果となり、2019年度決算、2020年度予算、定款改訂の議案について可決された。未返信の会員については4月～5月の在宅勤務体制にてオフィスをクローズしており、封書を受け取れないという理由がほとんどであった。

2. 各委員会報告

- 総務：現状でミーティングを持っていないので、とくに無し
- メディア・広報：ダイレクトリーについては会員宛に発送済。今回の会報については、総会結果の掲載を含め、現在進

行している。

■文化・厚生：サマーパーティーの開催について、今回の理事会にて協議した結果、9月開催へ延期することを決めた(その後、9月18日金曜日、出版クラブでの開催を現時点で決定した)

■事業：神保町ブックフェスティバルへの出展など、昨年同様に予定しているが、出店などについては、今後の動向に注視しながら決めていく。

3. その他

■グレシャム理事長から、会員数の減少を踏まえて、今後の協会の在り方について今年の最大の議案とする話が出て、継続議案として今後協議していくことになる。

■今回の理事会は7月を予定している。

わたしの職場

リレー連載 ● 第8回

株式会社 三善
書籍事業部
石橋 齋

弊社三善は、1951年（第1回目のNHK紅白歌合戦が放送された年だそうです）5月30日、東京都日本橋にて創業致しました。来年の5月には70周年を迎える会社ですが、創業当時から荻窪に社屋を構えていたわけではないとつい最近知り驚いている入社5年目の石橋です。

4年も勤めていれば去っていく人もあり、そして新しく入社してきて仲間となる人もあり。会社の内外を問わず、はじめましてのご挨拶を交わす際にためらいが生じてしまうのは、私の職種があまり明確ではないからです。「営業補佐の石橋です」という紹介で、普段の仕事内容をご推察頂くことは困難かと思えます（どうかすると社内でも「何をやっているのかわからない人」という認識をされているふしがあります）。そんな肩書きからは不透明な営業補佐の仕事について、今回少しだけ弁明させていただきます。

私の主な業務のひとつとしてあるのが、書誌情報をデータとして会社専用のシステムに登録していく、俗に言う“商品マスタ”の作成作業です。毎月登録する出版社はPenguin Random House (UK・USA)、Pan Macmillan、Harper Collins (UK)で、その他は必要に応じて都度登録していきます。書名・著者名・出版社名・外貨・出版年月・ジャンル等をぼちぼち打ち込んでいくのですが、本好きの方には楽しい作業ではないでしょうか。なにしろ大手出版社が数か月に発売する書籍の情報をいち早く入手できるのです（私は幾度となく、新刊の情報を見て「面白そうだ、翻訳が出たら読もう」とこっそりメモを残しています）。James Pattersonの衰えることのない執筆速度に毎月驚嘆し、Margaret Atwoodの『侍女物語』の続編が30年以上の時を経て発売される知らせに喜び、Haruki Murakamiの新しい翻訳にはようやく出るとそわそわしてしまう……そんな新刊情報にまみれた日々を送っています。

書店販売用の書籍1冊1冊に挟みこんでいる売り上げスリップにも、商品マスタの情報が印字されます。しおりサイズの細長い短冊なので印字されるのはマスタの一部ですが、三善のスリップでちょっと変わった特徴と言えるのが、本に対するコメントのような一文が付記できることです。必須情報として表示されるタイトル・著者名だけでは味気ないし情報としても物足りないので、たとえば和訳版のタイトルを添えたり、「××賞受賞作」「本

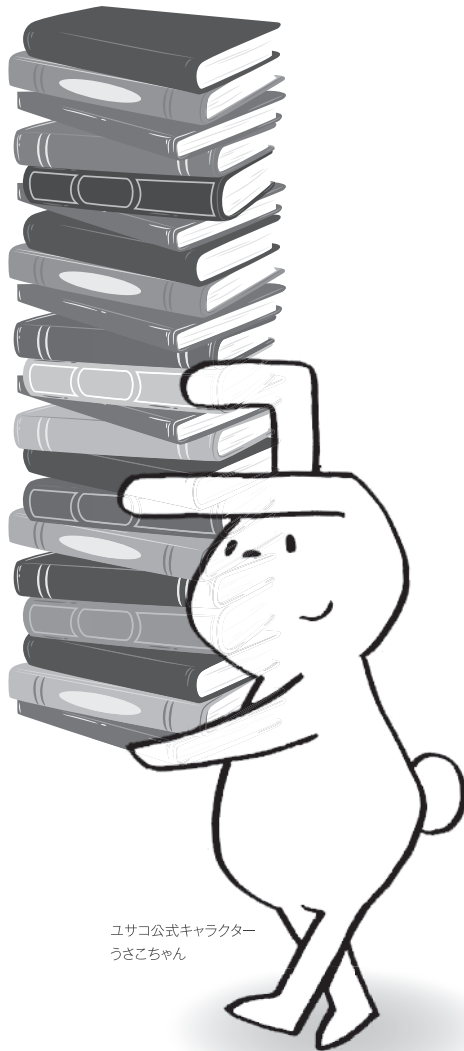
国で注目のデビュー作」と謳ったりと、わずか30文字ほどに過ぎませんが、手に取った方が未知の本について知る手がかりとなるようコメントを付けるようにしています。

商品マスタの登録自体は、営業よりもどちらかと言えば仕入れの仕事に近いのかもしれませんが。登録されたマスタを基にし、仕入れの担当者が海外の出版社へ発注を出してくれます。はるばる海を渡って商品が倉庫に届き、倉庫の担当者がせっせと検品を終えれば、書籍はめでたく三善の在庫品となります。

しかし黙っていても安定して売れる定番既刊（売り上げランキングから頑としてしりぞかないHarry Potterシリーズ、英訳版でも人気のサン＝テグジュペリ『星の王子様』、永遠の青春小説“The Catcher in the Rye”などなど。これからも末永く名作として売れ続けてください）と違い、まだ世に出たばかりの新刊は知名度がないも同然。とりわけここは異国の地・日本、洋書にとってはアウェーと言えます。そこで、「イキのいい新刊がたくさん入荷しますよ、ぜひお買い求めください！」と弊社からお客様（主に書店様）へアナウンスする媒体となるのが、注文書です。

実際には、入荷するよりも早い段階でこれと思うイチオシ商品の注文書を作成してお客様へと配布します。大物作家の新刊、人気シリーズの続刊、日本人作家の英訳本などは案内を欠かしません。スペースに余裕があればあらすじを翻訳し、簡略ながら注文書にそっと添えています。情報が過不足がないかどうか常に気を使います（余談ですが、あらすじを繰り返し読んでいと脳に記録されてしまい、読んでもいないのに読んだ気になっている新刊がちらほら存在します）。中でもこれはプッシュしなければ、というタイトルには、稚拙ながら書店でお使い頂けるPOP（はがきサイズ）を制作することもあります。

もちろん、注文書やPOPは後押しにすぎません。仕入れの担当者、受注の担当者、出荷の担当者、そして営業の担当者がそれぞれの業務をこなして無事、三善から本がどこかへと納品されていきます。弊社の業務全体についてもっとご説明できれば良かったのですが、補佐としてのささやかな仕事も三善の多岐に渡る業務の一部として機能しているのだなと思って頂けましたら幸いです。



ユサコ公式キャラクター
うさこちゃん

ユサコは、これからも学術情報を通じて
研究者を支えていきます

————— ユサコ株式会社 —————

* JAIP 会報 2020 年 5 月号は、新型コロナウイルスの影響で休刊いたしました。例年行われていた各種行事やイベントの中止により、今後も会報を休刊することがございます。申し訳ございませんが、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

日本洋書協会会報 vol.54 No.3(通算564号) 発行日2020年6月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523
URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:office@jaip.jp